

イギリスの民話・伝説に現れる動物名—II

池田 広昭

基礎・教養教育センター

Animal Names that Appear in British Folktales and Legends—II

Hiroaki IKEDA

Abstract

The purpose of this paper is to present a comprehensive list of animal names, along with their frequencies, which appear in Part A, Volume II of *A Dictionary of British Folktales in the English Language* by Katherine M. Briggs. How these animals are dealt with in the folktales is also described.

Key Words: Animal, Folktale, Britain

1. 序

本稿は、Katherine M. Briggs の *A Dictionary of British Folktales in the English Language, Part A, Volume II* に集録されている民話中の動物に関して、その種類、登場回数、扱われ方等について調べたものである。筆者（池田）による「イギリスの民話・伝説に現れる動物名—I」（2004）の続編にあたり、「マザー・グースに現れる動物名」（池田，1989）、「Shakespeare の言及している動植物名」（同，1992）、「Chaucer の言及している動植物名」（同，1997）と同一の系列上に位置する。

民話を読みながら動物名を拾い出し、その種類、登場回数、文脈中での扱われ方についてまとめた。種類だけでなく、登場回数も調べることによって、その動物に対する関心度の強さをはかるひとつの目

安が得られるものと考えている。

なお、Briggs の *Dictionary, Part A, Volume II* には笑い話、ノヴェルとナーサリーテールが収められている。

2. 動物の種類と頻度

Katherine M. Briggs の *A Dictionary of British Folktales in the English Language, Part A, Volume II* に集録されている民話に現れる動物の種類と登場の頻度及び扱われ方を、登場の頻度が高い順に一覧表にして以下に示す。（表 1～8）

動物名を拾い出すにあたっての基準は以下のとおりである。

一、基本的方針として、動物の種ではなく名を扱う。つまり同じ動物が複数の異なる名で呼ばれる場

合, それぞれの名を別々に扱う。例えば, *ass* と *donkey* (どちらもロバの意) はひとつにまとめず, 独立したものとして扱う。

一, 名詞以外の品詞も採る。ただし表での見出しは名詞形に統一する。たとえば過去分詞形になって形容詞化した *canker'd* は *canker* の見出しのもとに入れてある。

一, 複合語の一部として含まれている動物名も, 話の中で動物の意味が生きているときは, 採る。*horseback* の *horse*, *fox-hunting* の *fox* 等がこれにあたる。

一, 方言形については, それが標準英語の語形の訛ったものである場合は, その方言形を別の見出しとして立てずに標準英語の語形のところに入れる。したがって *coo* と *yowe* はそれぞれ *cow*, *ewe* の見出しに入る。しかし標準語形とかけ離れた方言形は別の見出しとして立てる。たとえば *maggie* の意の方言 *pynot* は, 別に *pynot* という見出しを立てる。

一, 民話という性格上, 動物名がしばしば固有名詞化しているが, もちろんこれらも動物名もとみなす。

一, 本文中に説明のために直接書き込まれている編者または著者の註の中に現れる動物名は採らない。

一, 動物名に付した日本語訳は, 動物学的正確さを意図するのではなく, おおまかな参考程度とする。

動物の頻度は合計登場回数ではなく, ある動物がいくつかの民話に現れているかを鍵として整理してある。そうする一番大きな理由は *Briggs* の *Dictionary* 中の民話の採録形態 (form) にある。つまり原典からの完全版ではない, *Briggs* の用語で言えば, *summary*, *shortened version*, *condensed version* といった要約, 短縮版がかなりの数含まれているからである。話が部分的に削られたり要約されたりしたときに, おそらくその話にとってあまり重要ではない動物名がたくさん消えたことだろう。したがって単純に合計登場回数で判断すると正確な分析, 比較になりにくい。しかし, 要約にしる短縮版にしる, その話にとって重要な動物は削られずに残っているはずであるから, ある動物が現れた話の数を基準にしたほうが, こういった採録形態の場合にはより意

味のある結果が得られるであろう。合計登場回数は参考にとどめるのがよいだろう。

動物の民話中での扱われ方については, 主題, モチーフ, 背景描写, 修辞の項目を設けて整理している。主題は動物が話の中心として扱われているかまたは擬人化して主人公になっている場合, もしくはそれに近い場合を表す。モチーフは民話を分類する際に使う話素のことで, 動物が話の展開の上で欠かせない要素である場合, またはこれに準ずる場合を表す。背景描写は主題でもモチーフでもなく背景の描写またはいろいろな説明に動物名が現れている場合を表す。修辞は比喩など文の飾りとして動物が用いられる場合を示す。これらの項目にのせている数字はその動物が現れる話の数を示している。動物がどういう扱いを受けているかに関する判断は重要度の高いほうにやや傾斜したものになっている。言いかえれば, 比較的甘くなっている。ひとつの動物に関して, 主題, モチーフ, 背景描写, 修辞という4項目の数値の合計がその動物が登場する話の数より大きい場合があるのは, 同じ話のなかでその動物が2つ以上の違った扱いをうけていることがあるからである。また, 小さい場合は, 動物名がパブの名前に使われているなどしてどの項目にもあてはまらないと考えられるようなケースである。

「ほかの資料」の項目のところには *Chaucer*, *Shakespeare*, *Mother Goose* (英国の伝承童謡)¹⁾, *Briggs* の *Dictionary, Part A, Volume I* にその動物への言及があるかどうかを示してある。言及がある場合はそれぞれ C, S, M, A1 という記号でそのことを示した。

Briggs の *A Dictionary of British Folktales in the English Language* の *Part A, Volume II* に登場する動物名をまとめると次のようになる。

哺乳類:	異なる名の総数	113 種
	合計登場回数	1977 回
鳥 類:	異なる名の総数	67 種
	合計登場回数	737 回
爬虫類:	異なる名の総数	3 種
	合計登場回数	5 回

表 1. イギリスの民話・伝説に現れる動物名-A2: 哺乳類

動物名	日本語訳	tale の 数	登 場 す る	回 合 計 登 場 数	主 題	モ チ ー フ	情 景 描 写	修 辞	資 料	そ の 他 の
horse	ウマ	90		300	0	58	32	1	CSMA1	
dog	イヌ	54		192	0	39	12	3	CSMA1	
sheep	ヒツジ	49		172	0	37	12	2	CSMA1	
cow	雌牛	37		135	0	29	9	0	CSMA1	
pig	ブタ	37		118	3	25	8	2	CSMA1	
cat	ネコ	31		105	2	25	1	4	CSMA1	
fox	キツネ	19		129	2	13	1	3	CSMA1	
hare	ノウサギ	18		48	0	17	0	0	CSMA1	
mouse	ハツカネズミ	16		73	3	9	1	3	CSMA1	
bull	雄牛	15		32	0	13	1	1	CSMA1	
donkey	ロバ	13		29	0	12	1	0	--MA1	
ox	去勢した雄牛	13		46	0	10	3	0	CSMA1	
mare	雌馬	12		24	0	10	2	0	CSMA1	
calf	子牛	10		55	0	8	2	1	CSMA1	
deer	シカ	8		17	0	7	2	0	CSMA1	
hound	猟犬	8		9	0	4	3	0	CSMA1	
ass	ロバ	7		21	0	6	0	2	CSMA1	
bear	クマ	7		81	2	0	2	3	CSMA1	
elephant	ゾウ	6		12	0	5	1	0	CSM-	
monkey	サル	6		20	1	4	1	0	-SMA1	
rat	ネズミ	6		37	0	5	1	0	CSMA1	
sow	雌豚	6		10	0	5	0	1	-SMA1	
herd	cow や pig の群れ	5		13	0	0	5	0	----	
lamb	子羊	5		8	0	4	0	0	CSMA1	
pony	ポニー	5		8	0	2	3	0	--MA1	
rascal	小鹿	5		6	0	1	0	4	-S--	
swine	ブタ	5		8	0	1	3	1	CSMA1	
team	一組のウマ	5		5	0	0	5	0	-S--	
cattle	家畜 (ウシ)	4		7	0	2	2	0	CS-A1	
foal	1歳未満の子馬	4		8	0	4	0	0	CSMA1	
goat	ヤギ	4		8	0	2	0	2	CSMA1	
rabbit	イエウサギ	4		6	0	2	2	0	-SMA1	
tod	キツネ	4		15	0	4	0	0	---A1	
whale	クジラ	4		6	0	2	1	1	CSM-	

wolf	オオカミ	4	23	0	2	2	0	CSMA1
charger	軍馬	3	4	0	2	1	0	----
ferret	ケナガイタチ	3	4	0	1	1	1	-S--
gelding	去勢馬	3	4	0	3	0	0	CS--
hog	ブタ, 去勢した雄豚	3	3	0	2	0	1	CSM-
kye	cow のこと	3	3	0	2	1	0	---A1
mousie	mouse の愛称	3	7	2	0	1	0	--M-
billy-goat	雄ヤギ	2	6	0	2	0	0	----
bitch	雌イヌ	2	7	0	1	0	1	-S-A1
buck	雄ジカ	2	2	0	1	1	0	CSM-
colt	雄の子馬	2	3	0	1	0	1	CSMA1
coney	アナウサギ	2	5	0	2	0	0	CS--
courser	軍馬	2	2	0	1	1	0	CS--
ewe	雌羊	2	4	1	1	0	0	-SMA1
hart	雄鹿	2	3	0	2	0	0	CSM-
hunter	猟馬	2	6	0	2	0	0	----
kid	子ヤギ	2	15	0	1	0	1	C--A1
kitten	子猫	2	2	0	2	0	0	-SMA1
nag	騾馬	2	2	0	1	1	0	-SM-
piggy	pig の愛称	2	4	0	2	0	0	--M-
venison	鹿のこと	2	3	0	2	0	0	----
whelp	子イヌ	2	3	0	2	0	0	CS--
ape	エイプ, 類人猿	1	1	0	0	0	1	CSMA1
bacon	豚のこと	1	1	0	1	0	0	----
bat	コウモリ	1	1	0	1	0	0	-SMA1
bandog	闘犬	1	1	0	1	0	0	-S--
baudron	ネコのこと	1	1	0	1	0	0	--M-
bay	栗毛のウマ	1	1	0	1	0	0	----
billy	雄ヤギ	1	1	0	1	0	0	----
boar	イノシシ	1	7	0	1	0	0	CSMA1
bull terrier	イヌの種類	1	1	0	1	0	0	----
bussock	rabbit のこと	1	1	0	0	0	1	----
cattie	cat の愛称	1	2	1	0	0	0	--M-
cur	のら犬	1	1	0	0	1	0	CSMA1
filly	雌の子馬	1	2	0	1	0	0	--(M) ²⁾ -
foalie	foal の愛称	1	1	0	1	0	0	----
foxy	fox の愛称	1	12	0	1	0	0	--M-
giraffe	キリン	1	1	0	0	1	0	----
greyhound	グレイハウンド	1	1	0	1	0	0	CSMA1

gryce	子豚	1	1	0	1	0	0	----
hedgehog	ハリネズミ	1	2	0	1	0	0	CSMA1
hind	雌鹿	1	1	0	0	1	0	CS--
jade	やせ馬	1	1	0	1	0	0	CS--
kine	cow のこと	1	1	0	1	0	0	CS-A1
kit	kitten のこと	1	1	0	1	0	0	--M-
kyloe	カイロー牛	1	2	0	1	0	0	----
lammie	lamb の愛称	1	1	0	0	1	0	--M-
lion	ライオン	1	5	0	1	0	0	CSMA1
litter	同腹子	1	1	0	0	1	0	----
livestock	家畜	1	1	0	0	1	0	----
long dog	greyhound のこと	1	2	0	0	0	1	----
mole	モグラ	1	1	0	0	1	0	-SMA1
mouser	ネコのこと	1	3	0	1	0	0	----
pack	猟犬の群れ	1	1	0	1	0	0	-S--
palfrey	乗用馬	1	1	0	0	1	0	CS--
panther	ヒョウ	1	1	0	0	0	1	-S--
Persian cat	ペルシャネコ	1	2	0	1	0	0	----
piglet	子豚	1	1	0	0	1	0	---A1
polecat	ケナガイタチ	1	1	0	1	0	0	C---
porker	食用豚	1	1	0	1	0	0	----
Poussie Baudrons	ネコの愛称	1	4	0	1	0	0	----
pup	子犬	1	1	0	1	0	0	----
puss	ネコの愛称	1	1	0	1	0	0	--MA1
pussy	ネコの愛称	1	1	0	1	0	0	--M-
ratton	rat の愛称	1	3	0	1	0	0	----
retriever	リトリバー	1	1	0	1	0	0	----
retriever dog	リトリバー	1	2	0	1	0	0	----
Reynard	キツネの愛称	1	6	0	1	0	0	---A1
sheepdog	牧羊犬	1	1	0	1	0	0	----
sheepie	sheep の愛称	1	1	0	1	0	0	----
spaniel	スパニエル	1	1	0	1	0	0	CSMA1
stag	5歳以上の雄鹿	1	1	0	0	1	0	-SMA1
steed	軍馬	1	3	0	1	0	0	CSMA1
stoat	オコジョ	1	1	0	1	0	0	----
stock	家畜	1	1	0	0	1	0	----
terrier	テリア	1	1	0	1	0	0	----
veal	子牛	1	1	0	0	1	0	----

weasel	イタチ	1	1	0	0	0	1	CSM-
whippet	ホイペット犬	1	1	0	1	0	0	----

表2. イギリスの民話・伝説に現れる動物名-A2: 鳥類

動物名	日本語訳	tale の数	登場する 回数	合計登場 回数	主 題	モチ ーフ	情景描 写	修 辞	資料 その他 の
hen	雌鶏	21	46	1	17	3	0	CSMA1	
cock	雄鶏	19	47	1	12	0	6	CSMA1	
parrot	オウム	14	54	0	14	0	0	-SMA1	
goose	ガチョウ	11	59	1	10	2	0	CSMA1	
cuckoo	カッコウ	10	22	0	7	0	3	CSMA1	
duck	アヒル	9	32	0	6	0	3	CSMA1	
chicken	ヒヨコ	8	28	1	5	1	1	CSMA1	
crow	カラス	8	13	0	4	1	3	CSMA1	
flock	鳥の一群れ	7	7	0	1	5	1	-S--	
owl	フクロウ	7	18	0	7	0	0	CSMA1	
turkey	シチメンチョウ	7	49	0	6	0	1	-SMA1	
hawk	タカ	6	12	0	4	2	0	CSMA1	
magpie	カササギ	4	7	0	3	0	1	-SMA1	
cockie	cock の愛称	3	13	2	1	0	0	----	
drake	雄ガモ (アヒル)	3	15	0	3	0	0	--M-	
ducky	duck の愛称	3	33	0	3	0	0	----	
goosey	goose の愛称	3	30	1	2	0	0	--(M)-	
henny	hen の愛称	3	38	0	3	0	0	----	
peacock	クジャク	3	6	0	2	0	1	CSMA1	
pigeon	イエバト	3	3	0	3	0	0	-SMA1	
raven	ワタリガラス	3	4	0	0	0	3	CSMA1	
buzzard	ノスリ	2	8	0	2	0	0	CS--	
capon	去勢鶏	2	18	0	2	0	0	CS-A1	
cocky	cock の愛称	2	37	0	2	0	0	----	
doo	Dove のこと	2	7	0	0	1	1	---A1	
duckie	duck の愛称	2	6	1	1	0	0	----	
eagle	ワシ	2	4	0	2	0	0	CSMA1	
gull	カモメ	2	3	0	0	0	2	-S--	
lark	ヒバリ	2	5	0	1	0	1	CSMA1	
poultry	鶏	2	3	0	2	0	0	---A1	

robin	コマドリ	2	23	1	1	0	0	--MA1
chickie	chicken の愛称	1	6	1	0	0	0	----
covey	ウズラの一団	1	1	0	0	1	0	----
dab-chick	小型のカイツブリ	1	3	0	1	0	0	----
daw	コクマルガラス	1	1	0	0	0	1	-S--
dunnoek	warbler のこと	1	1	0	1	0	0	----
falcon	タカ, ハヤブサ	1	1	0	1	0	0	CS-A1
finch	フィンチ	1	2	0	1	0	0	CS--
flight	鳥の一群れ	1	1	0	0	1	0	----
fowl	鶏	1	2	0	1	0	0	--M-
gander	ガン (ガチョウ) の雄	1	8	0	1	0	0	--M-
ganderee	gander の愛称	1	7	1	0	0	0	----
geese	単数形	1	1	0	0	0	1	----
gled	hawk のこと	1	4	0	1	0	0	----
Gobble	goose の愛称	1	7	1	0	0	0	----
goosie	goose の愛称	1	3	0	1	0	0	--(M)-
gowdspink	goldfinch のこと	1	1	0	0	1	0	----
hawky	hawk の愛称	1	1	0	1	0	0	----
hennie	hen の愛称	1	7	1	0	0	0	----
jackdaw	コクマルガラス	1	3	0	1	0	0	----
jammy lang neck	heron のこと	1	2	0	1	0	0	----
linnet	ムネアカヒワ	1	1	0	0	1	0	--M-
macaw	コンゴウインコ	1	1	0	0	1	0	----
ostrich	ダチョウ	1	1	0	0	1	0	-(S)--
partridge	ウズラ	1	1	0	1	0	0	CSMA1
pheasant	キジ	1	5	0	1	0	0	CSM-
Poll	オウム	1	4	0	1	0	0	----
pynot	magpie のこと	1	1	0	1	0	0	----
Robin Redbreast	コマドリ	1	1	1	0	0	0	-SMA1
rook	ミヤマガラス	1	1	0	1	0	0	CSMA1
rooster	雄鶏	1	1	0	1	0	0	--MA1
seagull	カモメ	1	1	0	1	0	0	----
swan	ハクチョウ	1	2	0	1	0	0	CSMA1
tewit	タゲリ	1	1	0	0	0	1	----
water-fowl	水鳥	1	1	0	1	0	0	----
wood-pigeon	モリバト	1	1	0	1	0	0	----
wren	ミソサザイ	1	2	0	1	0	0	-SMA1

表 3. イギリスの民話・伝説に現れる動物名-A2: 爬虫類

動物名	日本語訳	tale の 数	登 場 す る 回 数	回 合 計 登 場 数	主 題	モ チ ー フ	情 景 描 写	修 辞	資 料 の 其 他 の
serpent	ヘビ	1	2	0	1	0	0	0	-S-A1
snake	ヘビ	1	1	0	0	1	0	0	CS-A1
tortoise	陸ガメ	1	2	1	0	0	0	0	-S--

表 4. イギリスの民話・伝説に現れる動物名-A2: 両生類

動物名	日本語訳	tale の 数	登 場 す る 回 数	回 合 計 登 場 数	主 題	モ チ ー フ	情 景 描 写	修 辞	資 料 の 其 他 の
frog	カエル	2	2	0	1	0	1	1	CSMA1
toad	ヒキガエル	2	2	0	1	0	1	1	CSMA1
puddock	カエル, ヒキガエル	1	6	0	1	0	0	0	-S-(A1)
tadpole	オタマジャクシ	1	3	0	1	0	0	0	-S--

表 5. イギリスの民話・伝説に現れる動物名-A2: 魚介類

動物名	日本語訳	tale の 数	登 場 す る 回 数	回 合 計 登 場 数	主 題	モ チ ー フ	情 景 描 写	修 辞	資 料 の 其 他 の
eel	ウナギ	5	19	0	5	0	0	0	CSMA1
shell	貝	4	4	0	2	1	1	1	(C)-M-
herring	ニシン	3	8	0	3	0	0	0	-SM-
snail	カタツムリ	3	3	0	3	0	0	0	-SMA1
cockle	ザルガイ	2	3	0	1	0	1	1	-SMA1
slug	ナメクジ	2	3	0	1	0	1	1	CS--
barnacle	フジツボ	1	2	0	1	0	0	0	-S--
cod	タラ	1	1	0	0	0	1	1	-S--
conger	アナゴ	1	3	0	1	0	0	0	-(S)--

conger eel	アナゴ	1	1	0	1	0	0	----
Finnan	フィナンハドック	1	1	0	1	0	0	----
haddock	ハドック	1	1	0	1	0	0	----
hake	魚の一種	1	1	0	1	0	0	----
kipper	キッパー	1	16	0	1	0	0	----
oyster	下記	1	2	0	1	0	0	-SM-
pilchard	サーディン	1	1	0	1	0	0	-(S)--
salmon	サケ	1	1	0	1	0	0	CSMA1
sprat	ニシン科の小魚	1	2	0	1	0	0	-S--
trout	マス	1	2	0	0	0	1	-S-A1

表 6. イギリスの民話・伝説に現れる動物名-A2: 昆虫類

動物名	日本語訳	tale の 数	登 場 す る	回 合 計 登 場 数	主 題	モ チ ー フ	情 景 描 写	修 辞	資 料	そ の 他 の
flea	ノミ	6		31	0	6	0	0	CSMA1	
bee	ミツバチ	5		14	0	3	1	2	CSMA1	
fly	ハエ	4		6	0	3	1	0	CSMA1	
worm	芋虫, 蛆虫, 地虫	3		6	0	3	0	0	CSMA1	
wasp	スズメバチ, ジガバチ	2		4	0	2	0	0	CS-A1	
butterfly	チョウ	1		1	0	0	1	0	CSMA1	
canker	シャクトリムシ	1		1	0	0	0	1	-S--	
caterpillar	毛虫, 芋虫	1		1	0	0	0	1	-S--	
grasshopper	バッタ	1		3	0	1	0	0	-S-A1	
locust	バッタ, イナゴ	1		4	0	1	0	0	----	
maed	maggot のこと	1		5	0	1	0	0	----	
mosquito	蚊	1		1	0	1	0	0	----	
swarm	ハチの群れ	1		2	0	1	1	0	----	

表 7. イギリスの民話・伝説に現れる動物名-A2: 架空動物

動物名	日本語訳	tale の 数	登 場 す る 回 数	回 合 計 登 場 数	主 題	モ チ ー フ	情 景 描 写	修 辞	資 料	そ の 他 の
mermaid	人魚	1	1	1	0	1	0	0	CS-A1	

表 8. イギリスの民話・伝説に現れる動物名-A2: その他

動物名	日本語訳	tale の 数	登 場 す る 回 数	回 合 計 登 場 数	主 題	モ チ ー フ	情 景 描 写	修 辞	資 料	そ の 他 の
crab	カニ	1	2	2	0	1	0	0	-S--	
earth-worm	ミミズなど	1	1	1	0	1	0	0	----	
leech	ヒル	1	1	1	0	0	0	1	-S--	
louse	シラミ	1	24	24	0	1	0	0	-S--	
spider	クモ	1	1	1	0	1	0	0	-SMA1	
varmint	vermin のこと	1	1	1	0	0	0	1	----	

両性類:	異なる名の総数	4 種
	合計登場回数	13 回
魚介類:	異なる名の総数	19 種
	合計登場回数	74 回
昆虫類:	異なる名の総数	13 種
	合計登場回数	79 回
架空動物:	異なる名の総数	1 種
	合計登場回数	1 回
その他:	異なる名の総数	6 種
	合計登場回数	30 回
動物合計:	異なる名の総数	226 種
	合計登場回数	2916 回

3. 種類と頻度の傾向

Briggs の *A Dictionary of British Folktales in the*

English Language の Part A, Volume II に現れる動物名に関する数値を, Chaucer, Shakespeare, Mother Goose, Briggs の *Dictionary, Part A, Volume I* に登場する動物名とくらべてみることにする³⁾。Chaucer 以下 4 者の数値は以下の通りである。比較の便のために *Dictionary, Part A, Volume II* の数字も再掲する。

哺乳類の異なる名の総数と合計言及回数

Chaucer	80 種	658 回
Shakespeare	144 種	2378 回
Mother Goose	91 種	939 回
<i>Dictionary, AI</i>	87 種	1450 回
<i>Dictionary, AII</i>	113 種	1977 回

鳥類の異なる名の総数と合計言及回数

Chaucer	67 種	350 回
Shakespeare	93 種	751 回
Mother Goose	64 種	416 回
<i>Dictionary, AI</i>	59 種	424 回

<i>Dictionary</i> , AII	67 種	737 回
爬虫類の異なる名の総数と合計言及回数		
Chaucer	4 種	25 回
Shakespeare	12 種	131 回
Mother Goose	2 種	2 回
<i>Dictionary</i> , AI	5 種	64 回
<i>Dictionary</i> , AII	3 種	5 回
両生類の異なる名の総数と合計言及回数		
Chaucer	3 種	3 回
Shakespeare	5 種	40 回
Mother Goose	4 種	46 回
<i>Dictionary</i> , AI	5 種	100 回
<i>Dictionary</i> , AII	4 種	13 回
魚介類の異なる名の総数と合計言及回数		
Chaucer	13 種	27 回
Shakespeare	31 種	96 回
Mother Goose	11 種	25 回
<i>Dictionary</i> , AI	14 種	30 回
<i>Dictionary</i> , AII	19 種	74 回
昆虫類の異なる名の総数と合計言及回数		
Chaucer	9 種	43 回
Shakespeare	30 種	213 回
Mother Goose	13 種	39 回
<i>Dictionary</i> , AI	13 種	50 回
<i>Dictionary</i> , AII	13 種	79 回
架空動物の異なる名の総数と合計言及回数		
Chaucer	12 種	35 回
Shakespeare	23 種	99 回
Mother Goose	2 種	4 回
<i>Dictionary</i> , AI	7 種	80 回
<i>Dictionary</i> , AII	1 種	1 回
その他の動物の異なる名の総数と合計言及回数		
Chaucer	7 種	37 回
Shakespeare	15 種	101 回
Mother Goose	4 種	14 回
<i>Dictionary</i> , AI	1 種	3 回
<i>Dictionary</i> , AII	6 種	30 回
異なる動物名の総合計と言及回数		
Chaucer	195 種	1178 回

Shakespeare	353 種	3809 回
Mother Goose	191 種	1485 回
<i>Dictionary</i> , AI	191 種	2136 回
<i>Dictionary</i> , AII	226 種	2916 回

Briggs の *Dictionary*, Part A, Volume II に現れる動物名の種類数は 226 種、総言及回数は 2916 回で、*Dictionary*, Part A, Volume I よりそれぞれ 35 種、780 回多かった。Volume II のほうが 100 ページほどページ数が多いので、この結果は驚くにはあたらないが、数が増えているのは主としてナーサリーテールの特異性によるところが大である。話の性質上、この種の話にしか現われない（上の表で「その他の資料」の欄がすべて「-」になっている）cockie, cocky, duckie, ducky, hennie, henny, foalie, sheepie などの幼児語または愛称が多く登場して種類数を増やし、意図的に遊びとして動物名を繰り返すことによって総言及回数を増加させているからである。動物名を繰り返しながらそのたびに 1 つずつ付け足していき、またもとにもどるといふ積み重ね+サイクル型の話がナーサリーテールの典型である。中には 1 ページに 70 回も動物名が登場するような極端なものもある。1 ページに 70 回といえば、1 行ごとに 2, 3 回動物名が登場する割合である。

Dictionary, Part A, Volume II の動物名の合計登場回数が 2916 回というのは、この巻の動物名の分布密度が非常に高いことを示している。Shakespeare の合計言及回数は 2916 より多いが、テキストの分量が *Dictionary*, Part A, Volume II の数倍はあると思われるので、分布密度はそれほど高くはならない。Volume II における登場回数の多さは、集録されている笑い話、ノヴェル、ナーサリーテールが動物を中心に据えた話であるということ物語っている。動物は単なる添え物ではなく話のタネそのものなのである。そのことは上の表で主題として扱われている動物が少なからず（20 種余り）存在することやモチーフとして扱われている動物が非常に多いこと、また情景描写や修辞に使われているものがそれほど多くないことからうかがえる。これと対照的に Chaucer や Shakespeare の作品では、動物は文の飾りとして扱われることが多く、モチーフや主題にな

ることは少ない。文の飾りとして使われる場合、動物はマイナスイメージの比喻として言及されるのが一般的である。Mother Goose はナーサリーテールと同類であるから、ナーサリーテールとほとんど同じ傾向を示している。なお、Mother Goose とナーサリーテールの違いは、Mother Goose が歌で、ほとんどが韻文であるのに対して、ナーサリーテールがお話で散文であるという点にある。ただし、ナーサリーテールには一部脚韻を踏んでいるものがある。

動物名の顔触れ、頻度等は何を調べてもいつも全体としてだいたい似た傾向を示す。すなわち哺乳類が一番多く、次に鳥類がくる。そしてそれ以外は種類数においても合計登場回数においても、両者に大きく引き離されている。ここに哺乳類と鳥類に集中的に目を向けるイギリス文化の動物に対する見方の特徴が出ていると思われる。頻度上位にくる顔触れは、horse, dog, sheep, cow, pig, cat, fox, hare, mouse, hen, cock, goose, cuckoo, duck など家畜、家禽、狩猟関係の動物であり、いつも大体一定していてあまり変わることがない。一方、頻度が小さくなるほど資料ごとの独自性が出やすい。上の表からわかるように、*Dictionary, Part A, Volume II* には他に見られない動物名が多く含まれているという特徴がある。その一部がナーサリーテールに登場する幼児語であるということはすでに述べた。

爬虫類、両性類、架空動物、その他の数値が Volume I と Volume II とで大きく違うのは、集録されている話の種類の違いによるところが大きい。Volume II には超自然的な話が少ないので架空動物が登場しにくい。逆に flea などは笑い話やナーサリーテールでは話題になりやすいが、フェアリーテールには出てきにくいという面がある。

Volume I のフェアリーテールに登場する動物は、多くの場合、人間のことばを解したり話したりすることができるが、そういう動物の多くは人間が魔法にかかけられている一時的姿であることが多い。しかし、Volume II の動物は、もともと人間だったという設定のものはほとんどなく、最初から人間と同等のものとして扱われ自由に人間と話すことができるものとして登場することが多い。ナーサリーテール

は各種民話のなかでも最も荒唐無稽で、動物が擬人化しているだけでなく、命の宿っていないケーキや杖のようなものまでしゃべる設定になっていることさえある (The little cake, The wee, wee Mannie)。

4. 結語

動物名は、植物名にくらべてイギリスの昔の文学作品や民間伝承に登場する回数が圧倒的に多い。たとえば、Briggs の *Dictionary, Part A, Volume II* に登場する植物名は 81 種、568 回であるのに対して、同じ巻に登場する動物名は、すでに述べたように 226 種、2916 回である。Chaucer と Shakespeare の作品、Mother Goose でも同じ傾向を示す。日本の文学作品や民間伝承の場合、これほどまでは違わない。動植物の種類についてだけであるが、例をあげれば、近松門左衛門の戯曲に登場する植物名と動物名の種類はそれぞれ 521 と 442 であり⁴⁾、かえって植物の種類のほうが多い。日本とイギリスで動植物に対するとらえ方に差があることのひとつの現われであろう。

註

- 1) Mother Goose は、民間伝承であるため対象となる範囲が確定しないので、数値を扱うときには便宜的に次の 2 書に集録されている唄を調査範囲とすることにした。すなわち Miyakawa, Yoshihisa and Shigehiko Toyama. *A Handbook of Nursery Rhymes*. (Tokyo: Kenkyusha, 1985) と Opie, Iona and Peter. *The Oxford Nursery Rhyme Book*. (Oxford et al.: Oxford University Press, 1985) の 2 書である。
- 2) Mother Goose には filly-foal という形で現れている。以後、単独ではなく複合語の一部として現れている場合や、綴りが一部違っている場合 (goosey に対して goosie など) に括弧をつけることとする。
- 3) 池田 (1989), 同 (1992), 同 (1997) を参照。

4) 池田 (1992) を参照。

参考文献

Briggs, Katherine M. *A Dictionary of British Folktales in the English Language* Parts A and B. London: Paperback by Routledge, 1991.

_____. *An Encyclopedia of Fairies: Hobgoblins, Brownies, Bogies, and Other Supernatural Creatures*. New York: Pantheon Books, 1976.

The Oxford English Dictionary 2nd ed. on CD-ROM Version 1.13. Oxford: Oxford University Press, 1994.

Wright, Joseph ed. *The English Dialect Dictionary* Oxford University Press, First published 1905, Third impression 1986.

Opie, Iona and Moira Tatem ed. *A Dictionary of Superstitions*. Oxford and New York: Oxford University Press, 1992.

Pickering, David. *Dictionary of Superstitions*. London: Cassell, 1995.

Miyakawa, Yoshihisa and Shigehiko Toyama. *A Handbook of Nursery Rhymes*. Tokyo: Kenkyusha, 1985.

加藤憲市著『英文学動物ばなし』松柏社, 昭和 53 年。

ピーター・ミルワード著中山理訳『英文学のための動植物事典』大修館書店, 1990 年。

P・ミルワード著『イギリス風物誌』(スタンダード英語講座 11) 大修館書店, 1985 年。

成田成寿編集『英語歳時記 普及版』研究社出版, 1983 年。

安東伸介, 小池 滋, 出口保夫, 船戸英夫編『イギリスの生活と文化事典』研究社, 1986 年。

キャサリン・ブリッグズ編著, 平野敬一, 井村君江, 三宅忠明, 吉田新一共訳『妖精事典』富山房, 1992 年。

池田広昭 (1987) 「マザー・グースの中の植物」

(『幾徳工業大学研究報告』A-11, 昭和 62 年)。

____ (1989) 「マザー・グースに現れる動物名」(『神奈川工科大学研究報告』A-13, 平成元年)。

____ (1992) 「Shakespeare の言及している動植物名」(『神奈川工科大学研究報告』A-16, 平成 4 年)。

____ (1993) 「英国で伝統的に関心を持たれている植物—Mother Goose と Shakespeare の比較—」(『神奈川工科大学研究報告』A-17, 平成 5 年)。

____ (1994) 「Shakespeare の言及している植物名の作品別分布」(『神奈川工科大学研究報告』A-18, 平成 6 年)。

____ (1995) 「Shakespeare の言及している動物名の作品別分布」(『神奈川工科大学研究報告』A-19, 平成 7 年)。

____ (1996) 「*The Canterbury Tales* に見られる季節関連の表現と季節観」(『神奈川工科大学研究報告』A-20, 平成 8 年)。

____ (1997) 「Chaucer の言及している動植物名」(『神奈川工科大学研究報告』A-21, 平成 9 年)。

____ (1998) 「イギリス民話の寓話・教訓話及びフェアリーテールに現れる植物」(『神奈川工科大学研究報告』A-22, 平成 10 年)。

____ (1999) 「イギリス民話の笑い話, ノヴェル及びナーサリーテールに現れる植物」(『神奈川工科大学研究報告』A-23, 平成 11 年)。

____ (2000) 「イギリスの伝説に現れる植物—I」(『神奈川工科大学研究報告』A-24, 平成 12 年)。

____ (2001) 「イギリスの伝説に現れる植物—II」(『神奈川工科大学研究報告』A-25, 平成 13 年)

____ (2004) 「イギリスの民話・伝説に現れる動物名—I」(『神奈川工科大学研究報告』A-28, 平成 16 年)